

令和7年度業務実績にかかる小項目評価結果（案） 項目別整理表

資料4

原案では、①具体的な実績をあげて、高く評価できると記述されているほか、新たな取組が記述されており、かつ、②今後について大きな改善点が求められていない項目を選定しています。

< I ー 第 1 教育に関する項目 >

項目 番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たった 意見、指摘事項等
21101	適切な選抜の実施(学部)	—	—	入学者選抜関連情報の積極的な発信により、入学定員を満たす101名の入学生を確保するとともに、「地域推薦型選抜」など特色ある選抜を通じて県内での活躍が期待される12名の学生を確保したことは評価できる。「多言語多文化選抜」については、志願者・入学者の確保に向けた取組の充実を期待する。また、各入試区分の選抜方法を明確に示すため、アドミッションポリシーを改正したことは評価できる。今後は、地域の事情等を踏まえた特色ある入学者選抜の重要性が高まると考えられるため、選抜方法のあり方について引き続き検討を進めていただきたい。 一方で、令和7年度及び令和8年度入学者選抜試験で出題ミスが発生したことは、大学の信頼性に関わる重要な問題である。再発防止に向けたチェック体制の強化を着実に運用するとともに、継続的な検証を行い、より適切な入学者選抜の実施に努められたい。			○
21102	高大接続の拡大(学部)	—	—	「一日みかんだい生」「出前授業」「高校生のためのオープンクラス」等を通じて、高校生が看護職や学生生活を理解できる機会を継続的に提供するとともに、高校訪問等を通じて積極的に高大接続を推進したことは高く評価できる。特に、「一日みかんだい生」は定員を上回る応募と高い参加者満足度を得ており、看護職への関心や進路意識の醸成、ミスマッチの防止に資する取組として評価できる。	○	○	
21103	適切な選抜の実施(研究科)	—	—	学内推薦制度の周知や2年生対象の「キャリアデザイン」授業、大学院の広報用動画の作成・公開など、大学院進学者の確保に向けた積極的な広報・進学支援の取組は評価できる。また、大学院のコース別にアドミッションポリシーを見直し、改正したことは評価できる。 一方で、定員充足率は低い状況が続いていることから、地域ニーズや将来的な志願動向を十分に分析し、博士後期課程構想との整合性を含め、必要な教員体制や教育研究環境の整備を計画的に進められたい。			○

21104	教育課程・教育方法・内容の充実(学部)	—	—	「総合課題探求Ⅱ」など特色ある教育を展開し、異学年交流や倫理的課題の探究を通じた共同的な学びを推進したことは評価できる。また、国際交流についても、海外協定校との交流を継続し、学生・大学院生の国際的な学びの機会を確保したことは評価できる。 一方で、「学修成果に関する調査」において、「地域、社会、国際的な幅広い思考」や「様々な保健・医療・福祉と連携させる内容」に関する評価が低いことから、探求力の養成やカリキュラムの改善など、教育内容の継続的な改善を図ることを期待する。		○	
21105	公正な成績評価の実施(学部)	—	—	学生便覧やシラバスなどを通じて、先修科目条件や進級判定条件、成績評価基準等を明示するとともに、令和8年度から全学的な成績評価基準を運用することとした点は、公正性・透明性の向上に資する取組として評価できる。		○	
21106	教育課程・教育方法・内容の充実(研究科)	—	—	科目目的に応じて対面・ライブ配信・オンデマンドを適切に組み合わせるなど、学習効果と学生の利便性に配慮した教育方法の工夫や、研究倫理に配慮した修士論文の機関リポジトリ登録に関する制度整備を行ったことは評価できる。 博士後期課程の設置に向けては、設置の理念・目的やロードマップを明確にし、計画的に取り組むことを期待する。		○	
21107	公正な成績評価の実施(研究科)	—	—	カリキュラム・ポリシー及び履修規程の改正により、成績評価基準や到達レベル、評価方法の明確化を図るとともに、「学位論文審査基準」に基づく適正な学位審査や、学修成果ルーブリック評価の実施を通じて、公正な成績評価と学生の主体的な学修の促進に取り組んだことは評価できる。 今後も、評価基準の適切な運用と学修成果の継続的な検証を通じて、公正な成績評価の実施に努めることを期待する。		○	
21201	授業の点検・評価	—	—	「授業振り返りアンケート」により、授業改善に加えて学生自身の学修成果の振り返りを促す仕組みを整備するとともに、「教員相互による授業点検評価」において、優れた授業実践を教授会で共有するなど、教員相互の意見を教育改善につなげる取組を進めていることは高く評価できる。 一方で、実習科目におけるアンケート回答率が低い状況を踏まえ、学生が回答しやすい環境や方法を検討するとともに、改善結果を学生へ適切にフィードバックする取組を進めることを期待する。	○	○	

21202	研修会等の開催	—	—	研究・教育コロキウム、FD講習会等を計画的に開催し、研究倫理、知的財産、生成AI、論文執筆など、教育研究力の向上に資する多様なテーマを扱っていることは評価できる。また、研究科FD研修会など、教員・大学院生のニーズを踏まえた研修を実施している点も評価できる。 生成AIの活用については、教育研究の効率化につながることを期待できるため、情報管理や研究倫理上のリスクを踏まえた利用ルールの明確化などを行ったうえで、教職員・学生に継続的に周知することが重要である。		○	
21301	学習支援	—	—	学生相談制度やチューター制度を活用した組織的な学生支援体制の整備、学習環境の充実、国家試験対策の実施など、学生の学修・生活を支える取組を継続して行っていることは評価できる。また、教育懇談会時における保護者への授業公開など、ステークホルダーへの情報提供の充実も評価できる。 一方で、看護師と保健師の国家試験合格率については目標値の合格率100%に達していないことから、要因分析を行い、学生の主体的な学習意欲の向上や個別支援の充実を図るとともに、不合格者等の次年度受験への支援を継続することを期待する。		○	
21302	大社接続の支援	—	—	「就職説明会」や「ようこそ先輩」を継続して開催し、学生が卒業後の進路を具体的に考える機会を提供するとともに、早期に卒業生や県内医療機関等との接点を広げる取組を進めていることは評価できる。また、特別選抜による入学予定者及び保護者を対象とした「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成交流会」により、入学前から県内医療の現状や将来のキャリアについて理解を深める機会を提供している点も、県内就職の意識醸成につながる取組として高く評価できる。	○	○	
21303	就職支援	—	—	県内就職率が57.5%となり数値目標を達成したことは高く評価できる。また、「就活講座」「三重を知ろうⅠ・Ⅱ」等を通じて、学生の進路選択を支援するとともに、県内医療機関等への就職意識を高める取組を継続して実施していることも評価できる。 今後は、学生の就職先の選択要因を分析し、県内医療機関等との連携をさらに強化することで、県内就職率の一層の向上に向けた取組を進めることを期待する。	○	○	
計	12項目				4項目	10項目	2項目

< I – 第 2 研究に関する項目 >

項目 番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」にお ける重点的な取 組及び特筆すべ き取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項 等
22101	研究と地域課 題との循環の 促進	—	—	地域交流センター事業を通じて、施設対象看護研究支援等が継続して実施されており、参加者から高い評価を得ていることは、地域貢献の取組として評価できる。また、連携協力協定病院等との共同研究を開始し、地域に根差した研究課題に取り組むことで、大学の研究機能と地域課題を結び付ける取組を進めていることも評価できる。 今後は、共同研究の成果を地域へ還元するとともに、研究活動と地域課題の解決が好循環を生み出す取組として発展していくことを期待する。		○	
22102	競争的研究資 金の獲得	—	—	「外部資金助成情報管理システム」による情報提供などを通じて、競争的研究資金の獲得に向けた組織的な支援体制を整備し、競争的研究資金申請率100%を達成するとともに、科学研究費補助金の新規採択率向上につなげたことは評価できる。 採択率のさらなる向上に向け、若手教員への支援を含めた研究支援体制の充実を図るとともに、獲得した外部資金による研究成果の発信や地域課題の解決、学内共同研究の推進など、大学全体の研究力向上につながる取組を期待する。		○	
22103	研究成果の公 表と還元	—	—	大学ホームページへの研究業績・研究課題の掲載など、研究活動を広く発信する取組を進めていることは評価できる。また、「みかん大出前講座」「みかん大リクエスト講座」「ウェルビーイング事業」等を通じて、教員の専門性を活かした研究成果を継続的に地域に還元していることも評価できる。 一方で、紀要掲載数は限られていることから、大学として蓄積すべき研究成果や史料の発信方針を整理することを期待する。		○	
22201	研究活動への 支援	—	—	研究倫理審査、海外文献検索、科研費申請等に関する研修を実施し、教員の研究活動の支援体制を整備していることは評価できる。また、学長特別研究費による若手教員への研究支援や、連携協力協定機関との共同研究の推進など、研究活動の活性化につながる取組も高く評価できる。 今後は、研究インテグリティや公的研究費の適正執行に関する管理体制のさらなる充実を図るとともに、大型の外部資金獲得につながる研究支援体制の強化を期待する。	○	○	
計	4項目				1項目	4項目	0項目

<Ⅱ 社会・地域貢献に関する取組>

項目 番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項 等
31101	看護職者の能力向上	Ⅳ	Ⅳ	三重県受託事業を継続的に実施し、参加者から高い満足度を得ているなど、県内看護職者の能力向上に貢献していることは高く評価できる。また、認定看護師教育課程「感染管理」を開講し、52名の認定看護師を育成した結果、都道府県別登録者順位(人口10万人比)が10位に上昇し、地域の感染管理体制の充実に寄与するとともに、修了後のフォローアップ研修も継続している点も評価できる。 今後は、参加者の満足度だけでなく、事業成果や費用対効果を継続的に検証し、地域の看護人材育成へのさらなる貢献につなげることを期待する。	○	○	
31102	卒業生へのキャリア支援	Ⅲ	Ⅲ	同窓会と連携した「卒業生のきずなプロジェクト」を継続して実施し、対象を卒業後3年目まで拡大することで、卒業生同士や教員との交流、キャリア形成を支援する機会を提供したことは評価できる。 今後も、大学と同窓会の連携をさらに深め、卒業生への継続的なキャリア支援につながる取組へと発展することを期待する。		○	
32101	県民のヘルスリテラシーの向上	Ⅳ	Ⅳ	「みかん大出前講座」「みかん大リクエスト講座」「県民のヘルスリテラシー向上支援事業」等を通じて、教員の専門性を活かした多様なプログラムを提供し、県民のヘルスリテラシー向上に継続的に取り組んでいることは高く評価できる。また、参加者数・満足度ともに高水準であり、大学の専門性や魅力を地域へ発信する取組としても評価できる。	○	○	
33101	教育研究活動に基づく社会・地域貢献	Ⅳ	Ⅳ	教員が専門性を活かして県・市町・学協会等の各種委員会や協議会へ積極的に参画し、地域の保健・医療・福祉課題の解決や政策立案等に貢献していることは高く評価できる。また、連携協力協定機関との意見交換会の実施など、地域の医療機関との連携強化に向けた取組を進めている点も評価できる。加えて、連携協力協定病院との共同研究について、今後の成果に期待する。 一方で、教育・研究・大学運営業務と並行した社会貢献活動の拡大に伴う教員負担にも留意し、活動の持続可能性を踏まえた体制整備を進めることが望まれる。	○	○	
計	4項目				3項目	4項目	0項目

＜Ⅲ 大学運営に係る環境整備に関する取組＞

項目 番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項 等
41101	学生の生活支援	Ⅲ	Ⅲ	学生アンケートや意見箱を通じて学生の意見を把握し、対応結果をフィードバックするなど、学生の声を反映した支援体制を整備していることは評価できる。また、生活支援制度、健康相談、経済的支援等、学生生活を支える幅広い取組を継続的に実施している点も高く評価できる。 今後は、物価高をはじめとする社会状況の変化を踏まえ、経済的支援の利用状況や学生ニーズを継続的に把握し、より効果的な学生支援につなげることを期待する。	○	○	
41102	教職員の健康管理	Ⅲ	Ⅲ	産業医による面接指導、衛生委員会での情報共有、教職員満足度アンケートやストレスチェックの実施などを通じて、教職員の健康管理と職場環境の改善に継続的に取り組んでいることは評価できる。また、アンケート結果等を踏まえ、委員会の統廃合など具体的な改善につなげている点も評価できる。 一方で、業務量や研究環境、教員配置等については引き続き課題が見られるため、組織全体の働き方改革を継続的に進めることを期待する。		○	
42101	教育環境・IT環境の整備	Ⅲ	Ⅲ	教育研究活動を支えるIT環境の整備を計画的に進めている点は評価できる。特に、ファイアウォールの新設によるセキュリティ強化や、災害時にWi-Fiを開放できる仕組みの導入は、平時・災害時双方の利用環境向上につながる取組であると評価できる。 大学においては、学生・教職員の個人情報、研究情報、入試関連情報等の重要情報を扱うため、インシデント発生時の報告体制、初動対応、原因分析、再発防止策の実施状況を継続的に確認し、実効性ある情報セキュリティの管理体制を維持していくことが重要である。また、AIの活用についても大学の方針等を定めることを期待する。		○	
42102	図書館運営の充実	Ⅲ	Ⅲ	外国文献検索の活用方法を再確認する教員向け講座を開催するなど、教育研究支援の充実に取り組んでいる点は評価できる。また、附属看護博物館について、第8期企画展に向けた準備を適切に進めた点も評価できる。附属看護博物館が地域に開かれた大学づくりの一助となるよう、今後の活用方策を引き続き検討するとともに、県内外への情報発信をさらに進めることを期待する。		○	
42103	環境等への配慮	Ⅲ	Ⅲ	LED化や節電の呼びかけなど、省エネルギーと環境負荷低減に向けた取組を継続し、電気使用量の削減につなげている点は評価できる。また、環境問題に関する研修等を通じて、学生・教職員の環境意識向上に取り組んでいる点も評価できる。 一方で、OA用紙使用量は昨年度より増加しているため、要因を分析しつつ、会議資料の電子化や各種申請・承認手続のデジタル化など、紙使用量の削減と業務効率化を一体的に進めることを期待する。		○	

43101	大規模災害時等への対応	Ⅲ	Ⅲ	安否確認システムによる訓練や時間外に大規模地震が発生した場合における班別行動マニュアルの整備など、大規模災害発生時に備えた危機管理体制の強化に取り組んでいる点は高く評価できる。 今後は、訓練で明らかとなった課題へのフォローアップを継続するとともに、学生・教職員の大規模災害に対する意識の醸成として、大規模災害発生時等における地域との連携や支援のあり方、大学の役割等について明確化し、周知することを期待する。	○	○	
43102	危機管理への対応	Ⅲ	Ⅲ	大学ネットワークのサイバーセキュリティに関して、サーバのウイルス検知への対応、メールアドレス不正アクセス発生時のパスワード変更・注意喚起等を行ったことは、危機管理が有効に機能した結果であると評価できる。 大規模災害が発生した場合の初動体制に関しては、学生も含めた教育・訓練等について検討いただきたい。 入試出題ミスに関しては、大学の信用・信頼を揺るがす重大な問題であるため、内部統制の強化につなげることが望まれる。		○	
44101	人権尊重とハラスメント防止	Ⅲ	Ⅲ	学生・教職員を対象としたハラスメント防止研修を実施するなど、ハラスメント防止に向けた継続的な取組を進めている点は評価できる。全教職員がハラスメント相談窓口となっているが、学生や教職員のニーズに対応した相談体制となっているか、種々のアンケート調査結果を分析し、検討いただきたい。 学部生を対象とした「いじめやハラスメントに関するアンケート調査」では、相談窓口の認知度や相談のしづらさなどの課題が残るため、相談体制のさらなる明確化と、相談者が安心して相談できる体制整備を進めることを期待する。		○	
計	8項目				2項目	8項目	0項目

＜Ⅳ 的確な業務運営の実施及び業務改善に関する取組＞

項目 番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項 等
51101	組織体制	Ⅲ	Ⅲ	大学戦略会議において18歳人口の減少やDXの進展など大学を取り巻く環境変化を踏まえ、今後の改革の方向性を具体的に検討することは、大学の将来を考えるうえで重要である。一方で、会議で決定した今後の取組内容が、全学の取組として波及していくか不明瞭であるため、内部統制機能の発揮等により、大学の強みや特色が更に明確になっていくことを期待する。 理事長選考において選考基準を見直し、今後求められるリーダーシップ像を明確化したことも、組織運営の継続性と実効性を高める取組として評価できる。		○	
52101	教職員の充足	Ⅲ	Ⅲ	研究者人材データベースや大学ホームページを活用して教員公募を行い、教員選考委員会や領域の長による面接を通じて、優秀な教員の確保に努めている点は評価できる。 一方で、採用者数は限られており、今後は博士後期課程設置に必要な教員確保も課題となることから、採用方法の工夫や中長期的な人材育成等の検討が重要である。		○	
52201	教員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	夏季休暇期間における緊急性の低い定例会議の休会や年末年始の一斉閉校など、教員の負担軽減と働き方改善に向けた取組は評価できる。 今後は、業務負担軽減の効果を検証することを期待する。また、新たに提案した働き方改革に関する評価視点を、外部の評価指標等も参考とし、定期的な評価・改善につなげていくことを期待する。		○	
52202	事務職員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	業務の標準化や後継者育成を含め、大学運営を支える人材育成を継続的に進めることは重要である。法人固有職員の研修計画を策定し、業務改善について提案する機会を設けたことは、組織の活性化を促進する点で高く評価できる。提案内容に関し、業務改善が図られ、よりよい成果となることを期待する。	○	○	
計	4項目				1項目	4項目	0項目

< V 財務内容の改善に関する取組 >

項目 番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項 等
61101	自己収入の確保	Ⅲ	Ⅲ	施設使用料や広告掲載料などを通じた自己収入を継続して確保している点は評価できる。 今後は、安定的な財源確保に向け、認定看護師教育課程に代わる新たな収入源の創出についても検討を進めることを期待する。		○	
61102	知的財産の適切な保護と活用	Ⅲ	Ⅲ	特許について審議し、知的財産の有用性や維持コストを踏まえた適切な管理を行っており、知的財産の保護に努めていることは評価できる。また、全教職員を対象に生成AIを含む知的財産に関する研修を実施し、知的財産に対する意識の醸成に取り組んでいることも評価できる。		○	
62101	経費の抑制	Ⅲ	Ⅲ	教職員のコスト意識向上に向けた取組や、LED化、一斉閉校等による経費削減を進めている点は評価できる。 今後は、経費削減による教育研究活動への影響を確認しながら、必要な投資とのバランスを図ることが重要である。		○	
63101	資産の適正管理	Ⅲ	Ⅲ	中長期改修計画に基づく施設改修を適切に実施していることは評価できる。 今後も、施設・設備の老朽化や建築資材等の高騰を踏まえ、将来の更新費用を見据えた長期的な修繕計画の策定と財務負担の見える化を進めていただきたい。		○	
計	4項目				0項目	4項目	0項目

<Ⅵ 大学教育の質保証及び情報の公開・発信に関する取組>

項目 番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項 等
71101	自己点検・評価 及び外部評価	Ⅲ	Ⅲ	大学教育質保証・評価センターによる審査や県評価委員会等の外部評価も踏まえ、自己点検・評価の充実を図っていることは評価できる。また、地域の協力団体と連携しながら実施している「三重を知ろうⅠ・Ⅱ」の授業内容が優れた取組として評価されたことは高く評価できる。 今後は、自己点検評価で把握した課題について、対応状況を継続的に追跡することが重要である。	○	○	
71102	内部監査の推進	Ⅲ	Ⅲ	中長期監査計画に基づき内部監査を計画的に実施したうえで、監査結果を理事長、理事会及び教職員に共有し、「要改善」や「意見」とされた事項について担当課等に対応を求め、その状況を確認している点は評価できる。 今後は、内部監査のテーマ選定にあたり、リスク評価の過程を明確にするとともに、財務、研究倫理、情報セキュリティ、危機管理、人事労務などの主要なリスク領域が中長期的に網羅されているかを確認しながら、内部監査を内部統制の強化と業務改善につなげていくことが重要である。		○	
72101	情報公開・情報 発信の推進	Ⅲ	Ⅲ	財務諸表等の公表や会計監査人による監査の実施により、大学運営の透明性・説明責任を確保している点は評価できる。また、広報媒体の見直しや高校生・受験生向け広報誌の発行、大学院広報動画の公開など、対象に応じた情報発信の充実に取り組んでいる点も評価できる。インターネット社会において、大学ホームページ等を介した情報公開・情報発信はますます重要となるため、さらなる工夫を期待する。		○	
計	3項目				1項目	3項目	0項目